

小学校中学年の部

特選 自由図書部門

「おりづるの旅を読んで」

春日小学校三年

小椋 風花



「さだこの祈りつて、どんな祈りなんだろう。」
私はこの本を手にした時にそう思いながら読んでいました。
そして、せんそうの怖さを知りました。

さだこは私と同じように元氣いっぱいの子でした。でも、「ピカドーン」広島で初めての原ばくが落とされたのです。その十年後、さだこは死んでしまいました。原ばくで放しや能をあげたせいです。

さだこは、中学校の入学式にも出られないまま、死ぬまでずっと入院をしていました。「おりづるを千羽おるとねがいがかなく」と聞いておりづるをおりはじめました。さだこはどんなに苦しい検査や治りようでも泣き言を言ったことがないほどがまん強い子でした。私だったら、体を動かすことができなくなったら、いらいらして毎日泣いてばかりいると思います。「さだこのびょう気が治りますように」と祈りながら読んでいきました。しかし、千羽をこえるつるができてさだこは死んでしまいました。

原ばくはいやだ。なぜ、せんそうがおきるのだろう。せんそうなんておきななければいいのに。大切な家族が、友達がいつしゆんでなくなってしまう。私は、いかりがこみ上げてきました。

私はこの夏に、広島市の平和記念しりよう館に行きました。そこには、さだこの折ったつるがありました。早く病気が治ってみんなと同じように学校へ行つて、友達といっしょにべん強をしたり、運動したり、遊んだりしたかったのだろうなと思います。もつと生きていたいと思つていたのだと思います。

さだこと同じように亡くなった子ども達はたくさんいるそうです。この悲しみが二どとおこらないようにさだこの同級生たちによって「原ばくの子の像」ができあがりました。「これは、ぼくらの叫びです。これは、わたしたちの祈りです。世界に平和をきずくための。」これが、さだこの祈り、子ども達の祈りなんだと思えました。私も、少女がおりづるをかかげた像を見上げてせんそうのない、平和な世界になりますようにと祈りました。

このおりづるは「平和を祈るシンボル」として世界中に広がっていきました。しかし、今、世界のあちらこちらで戦争が起きています。テレビで見ると心がもやもやします。私は平和記念しりよう館へ行つて写真ややけこげたくさんの物を見てきました。そして、この本を読んで初めて原ばくのことやさだこのことを知りました。

今の私は好きな物を食べて、自分で選んだ服も着ることができます。兄弟や友達と楽しく遊んで、走り回ることもできます。家族みんな元氣で怒ったり泣いたり笑ったりできます。幸せにくらせることにかんしゃして前向きに生きていきたいと思いました。

『題名 おりづるの旅 (作者名 うみの しほ) 作
さだこの祈りをのせて』
PHP研究所 出版

【講評】

この夏、家族で訪れた広島原爆資料館。そこでさだこが折ったつるを初めて見た風花さん。「もつと生きたかった。」というさだこの思いを肌身で感じ、毎日学校に行ったり家族や友達と生活したりすることが、実はどれほど幸せなことだったのかと、気付くことができました。